

NO31

桑名空襲の焼夷弾の一部

所在地は三重郡菟野町（個人所有）



太平洋戦争中、北勢地域も大規模な空襲にさらされました。写真奥の筒のようなものは、そのとき桑名で落とされた焼夷弾の一部です。

このなかには油脂がつめ込まれており、ひとつの爆弾にこの筒状のものがいくつも入れられていました。空中で破裂した爆弾から、この筒が火を吹いて雨あられのように人々の頭上に降ってきたわけです。その地獄絵図は想像するに難くありません。

焼夷弾はアメリカ軍が日本を空爆するにあたり、木造の建物を破壊するためもっとも有効として考案したものです。兵器とは人を殺すための道具でしかないという本質があらわれています。

イラク戦争を見るにつけ、戦争や兵器の本質が今の世になっても変わっていないことを、この1本の焼夷弾は語っています。

また菟野にあった陸軍飛行場跡地には、いまでも弾薬などがあり、写真のこれらはすべてその場所で個人により収集されたもので、手前はパイロットの飛行帽と思われます。

20060715 掲載